「書く力を高める授業の研究」

田原本町立北小学校

○　推進校として実施した研究内容

１．重点課題への取組状況

研究課題	平成23年度の重点課題
これまで地域の人材を活用し、体験的な学習を位置付けてきている。今後さらに、教科等を横断的に関連付けながら子どもたちに、「生きて働く力」を身に付けさせたい。	・基礎・基本の定着を図り、知識･技能の活用を目指す。 ・「考えること」を大事にし、根気強く取り組む習慣を身につけさせる。 ・自尊感情を育むよう取り組む。

(1) 本校の実態把握

① 地域の教育力に支えられて

下学年から地域に出かけたり、地域の人材を招いたりして体験学習に取り組んできている。弥生の里を生かした体験学習【曲玉づくり・土器焼き・田植え・稲刈り・菜の花プロジェクト《菜種を植えて菜種油を採取》、萩原農園見学（メロン・スイカの品種改良）･･･】など、地域の人材に体験学習を支えてもらっている。

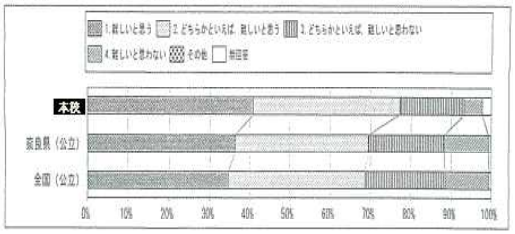
② 児童の学習への意欲

これまでの全国学力・学習状況調査の結果を見てみると、子どもたちは、国語・算数 の「知識」「活用」共に県や全国と比較して大きく下回ることはなかった。また、国語の観点別の評価を見てみると、書く能力の正答率は90.5％(2010年調べ)と高い。しかし、質問紙調査では、「書くこと」を難しいと捉えている子どもたちが75％を超え全国や県の割合を上回っている。

このことから、子どもたちは、書く能力はあるものの「書くこと」への意欲や自信が十分に育っていないと考えられる。

400字づめ原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思いますか。

質問番号	質問事項									
(50)	400字づめ原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
本校	40.9	36.4	15.9	4.5					0.0	2.3
奈良県（公立）	36.4	33.1	18.7	11.0					0.1	0.6
全国（公立）	34.6	34.1	19.7	11.0					0.0	0.6



(2) 研修目標の設定

2011年度　　確かな学力を培う学習の創造 書く力を高めるための授業の研究

○　授業改善に向けての研修（県教育委員会　指導主事を迎えて）

・　書く力を高めるために

「考えること」を大事にし、根気強く取り組む習慣を身につける。

【順序立てて、分かりやすく表現する力の育成】

・　到達目標とつけたい力の設定　（ブロック研修で）

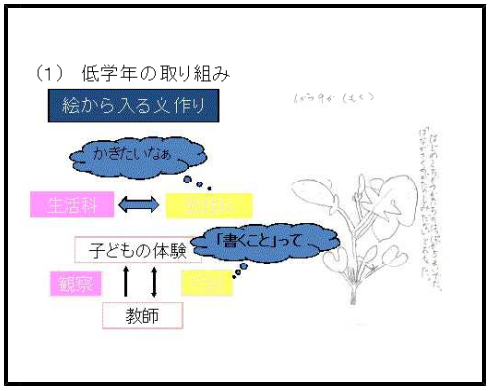
子どもたちが、「書くことは楽しい。書くことで自分の考えを伝え合うことができる。」という経験を重ねることで、「またやってみたい。」という意欲が高まり自信へとつながっていく。そこで、学年ごとの到達目標と「つけたい力」を明らかにしていった。

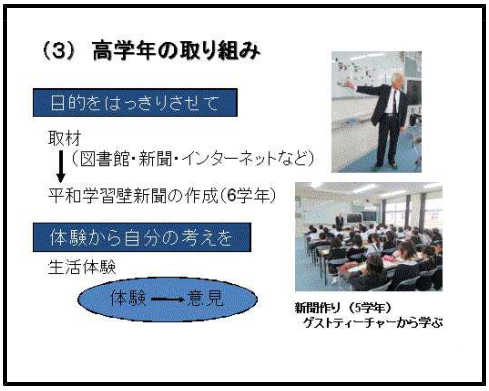
	学年	到達目標	つけたい力
低学年	1	順序を整理して、簡単な構成を考えて文章が書ける。	時間の経過に沿って経験したことを書くことができる。
	2		経験したことを整理し、簡単な構成を考えて書くことができる。
中学年	3	相手や目的を意識し、段落相互の関係に注意して文章が書ける。	段落のまとまりを意識して書くことができる。
	4		適切な接続詞を使い、段落と段落の続き方を考えて書くことができる。
高学年	5	相手や目的を意識し、文章全体の構成を考えて文章が書ける。	・段落をはっきりさせ、段落相互の関係が分かるように構成を考えることができる。 ・事象と感想、意見についてふさわしい書き方をすることができる。
	6		・目的や意図を考えて、語句の選び方などを考えて書くことができる。 ・表現の効果を工夫して書くことができる。

(3) 学年の取組

授業改善に向けて、ブロック研修（低・中・高学年部会）で意見交流を行い、次の三つを大事にしながら、授業を組み立てていった。

○ つけたい力は明確になっているか？
○ どのような言語活動を設定していくか？
○ 他教科との関連は？





(4) 授業研究の取組（県教育委員会　指導主事を迎えて）

授業改善に向けて、子どもたちが、「楽しい・分かった・見通せる・またやりたい・・。」という授業にするために、書くことを効果的に取り入れた横断的な単元を構築する取組を進めた。

―――――― 授業の様子 ――――――

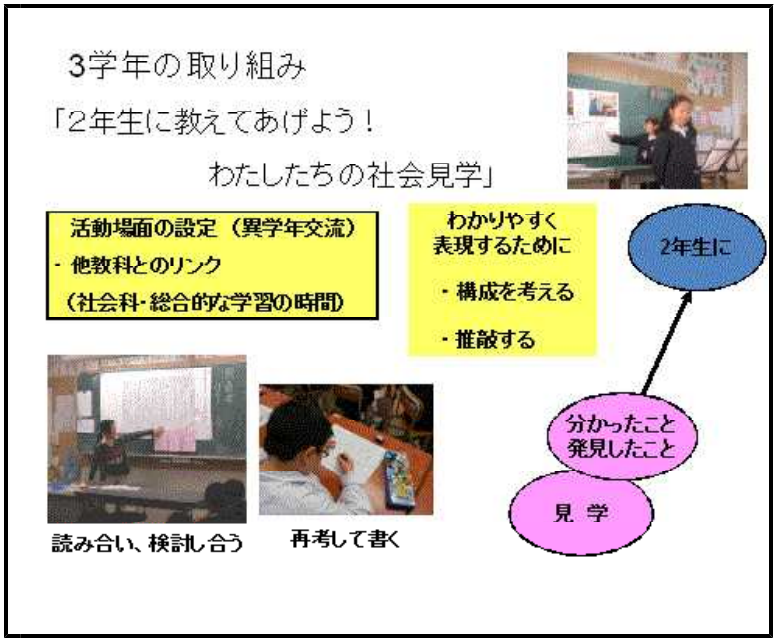
○ 国語科でつける力

新学習指導要領の書くこと・読むことに示された「交流」を大事にした授業計画を立案した。３年生の子どもたちが、地域の農場で見学し体験したことを作文にまとめ、グループやクラス全体で相互評価をして推敲した。自分の考えと他の人の考えを比べたり、もう一度調べ直したりして自分の考えを整理し、より相手に伝わるように書き進めていった。

○ 図画工作で興味を広げる

自分が作文に書いたことを工作で表現した。

ダンボールを切ったり、色をつけたり、楽しみながら大きなトラクターをつくり上げた。



○ 社会科で学習を深める

社会科で「くらしをささえる人びと」を学習する中で、自分たちの地域にも野菜や果物の品種改良を研究している人たちがいることに気付いていった。

○ 異学年（第２学年）の児童に、書き上げた作文を基に模造紙にまとめたものや図画工作で作った道具を使って、体験学習で学んだことを伝えた。相手意識が明確になり、第２学年の児童にも内容がよく伝わる発表会となった。

２．調査研究の成果及び今後の課題

全体研修で授業改善と研修の充実を確認し、ブロック研修で具体的な学年の取組の点検をしてきた。

＜成果＞

・到達目標、つけたい力を整理することで、子どもの実態を確認しながら見通しをもって指導できるようになった。
・教員個々の実践を共有できるようになった。
・児童の書く意欲が高まったり、書く量が増えたりした。また、自分の考えを入れた文章を書けるようになった。
・交流（相互評価）を行うことで、自己理解・他者理解の場が広がった。

＜課題＞

・他教科等との関連を指導計画に位置付け、定着させたい。
・自分の考えを深めさせるための手立てについて、研修する必要がある。
・学力調査等で、具体的に児童の変容を確認していきたい。